

聖書やヘブライ語の研究に努め、55年から10年間、地元のラジオ局で毎週ラジオ伝道を行った。1981年（昭和56）召天。信仰に生きたクリスチャン歯科医・石濱義則の足跡を描いた短編記録映画『遺言』（監督：盛善吉）は、没後の83年に完成、妻シナヨは2008年（平成19）101歳で逝去した。演者は2014年にノンフィクション作家でエッセイストの石浜みかる氏の知遇を得てお話を伺うことができ、合同例会当日にもご出席いただいた。

文 献

- 1) 同志社大学人文科学研究soキリスト教社会問題研究会. 特高資料による戦時下のキリスト教運動I～III. 新教出版社. 1972-73.
- 2) 石浜義則. 私の歩んだ道 主イエス・キリスト. 私家版. 1979.
- 3) 石浜みかる. 勝ち得た自由——父から聞いた原爆の話——. (女子パウロ会編. 原子野からの旅立ち. 女子パウロ会. 2005. 所収)
- 4) 田島和生. 新興俳人の群像——「京大俳句」の光と影——. 思文閣出版. 2005.
- 5) 石浜みかる. 「守るべき神の言葉がある」——石濱義則の場合. (石浜みかる. 変わっていくこの国で——戦争期を生きたキリスト者たち. 日本キリスト教団出版局. 2007. 所収)
- 6) 石濱義信. 戦時の経験. (いのちのこことば社出版部編. 子どものとき、戦争があった. いのちのこことば社. 2011. 所収)
- 7) キリスト教史学会編. 戦時下のキリスト教——宗教団体法をめぐって——. 教文館. 2015.
(平成27年12月六史学会合同例会)

書 評

今井 秀 著

『近世の医療史——京洛・大坂ゆかりの名医——』

同書は、近世をメインに曲直瀬直三から緒方洪庵までの京都・大阪ゆかりの著名な医師たち40名を大項目として立てた、フルカラーA4サイズの百科事典的な書籍である。それぞれの大項目（医師）の内容は次のような構成となっている。

- ・肖像画などの資料図版をふんだんに用いながら、その生涯と業績を詳説。
- ・主要な著作を主要ページの影印とその読み下し文あるいは解説で紹介。
- ・墓所については著者自らが現地調査し、菩提寺・墓の位置や写真だけでなく碑文や碑面の状態まで紹介。
- ・関連する他の医師（弟子や対立者）・事項についてのコラムを多数挿入。
- ・関連する学系図・系譜・系図を豊富に挿入。

肖像・史料の影印・写真などの図版を約1,100点以上（同書紹介文による）も用いるだけではな

く、読み下し文やコラムなどの項目数や分量も多く、A4判で約600ページという物理的大きさ・重量から受ける印象に違わぬ内容・情報量に圧倒される。

しかも、その圧倒的な情報量についても全く無駄がなく、加えて目次・本文とも単なる羅列ではなくA4判という大きな判型を活かしながら視認性を強く意識した配色・紙面配置がなされており、どのページを開いても何がどこに書かれているのか一目瞭然である。

市井に流通する「図版を多用」した「フルカラー」の「解説書」の類は、得てして不必要な図版と過度のカラー化により内容・情報量が水増しされ無駄な部分の多さに辟易するのが常であるが、同書はそのようなものとは対極に位置し、比較すること自体著者に対して失礼にあたるであろう。

それどころか、Information Technology 機器の発達により学術界にも豊富な情報量と検索性や視認

性に優れた電子書籍や電子資料が溢れているが、同書は紙の書籍であるのにも関わらず、否、紙の書籍である点をフルに活かしそれらの点でも電子書籍・電子資料に勝るとも劣らないものになっている。

日本の医学史に興味を持ったばかりの読者、長年の研鑽を積んできた研究者、どちらにも対応する情報・記述があるだけでなく、個々の読者が必要とする情報にすぐにアクセスできるように設計されている、まさに「かゆいところに手が届く」一冊と言えるであり、手元にあると有用であることは間違いない。

ただ、非常に惜しいことに誤記がやや多く、評者が手にしている「第1刷」では3枚にわたる正誤表が添付されている。同書の最大の長所であるところの、内容へのアクセスのしやすさという側面から緻密に計算された紙面に膨大な情報が展開されている点を鑑みるに、大変残念である。同書の本来の価値が最大限引き出されるために、改訂版が出されることを切に願う。

武田科学振興財団杏雨書屋 編

『曲直瀬道三と近世日本医療社会』

15名の執筆者による論文26篇と資料2篇からなる重厚な研究書が出版された。まさに書名どおりの内容で、近年の医史学研究が到達した視野の広さと論究の深さ双方を兼有している。曲直瀬道三とその一門のみならず、近世日本の医療・医学と周辺や、背景にある社会と文化を各視点から分析・議論しており、今後それらを研究するための必須文献となるであろう。時代が希求していた書である。

顧みると、道三と一門の医史は富士川游『日本医学史』(1904初版)で取り上げられて以来、石原明『医史学概説』(1955)、服部敏良『室町安土桃山時代医学史の研究』(1971)、京都府医師会

内容

[大項目として紹介されている医師]

曲直瀬道三、施薬院全宗、秦宗巴、曲直瀬正琳、野間玄琢、堀杏庵、古林正温、名古屋玄医、岡本一抱、後藤長山、並河天民、松原一閑斎、香川修徳(修庵)、山脇東洋、山脇東門、荻野元凱、賀川玄悦、賀川玄迪、吉益東洞、吉益南涯、中西深斎、中西鷹山、橋南谿、和田東郭、中神琴溪、宇津木昆台、永富独嘯庵、淡輪元潜、麻田剛立、福井楓亭、高階枳園、百々漢陰、小石元俊、小石元瑞、橋本宗吉、海上随鷗、斎藤方策、新宮凉庭、中天游、緒方洪庵

江戸時代前期に活躍した大坂の医家

江戸時代後期に活躍した大坂の医家

[附録]

京都の墓所一覧

大坂の墓所一覧

(松村 紀明)

[ミヤオビパブリッシング、〒102-0083 東京都千代田区麹町6-2 麹町6丁目ビル2階、TEL. 03(3265)5999、2015年2月、A4判、597頁、27,000円(税込)]

『京都の医学史』(1980)、宗田一『図説日本の医療文化史』(1989)などで特筆されてきた。これを主題とした研究書は矢数道明『近世漢方医学史／曲直瀬道三とその学統』(1982)が最初だったが、30数年後の本書は第2の専著となる。

本書の特徴はいくつもある。第一は杏雨書屋所蔵の曲直瀬家・今大路家文書を縦横に駆使したこと。それ自体は本書のII「杏雨書屋所蔵曲直瀬道三・玄朔関係文献一含、田代三喜・月湖・今大路家等」にて、清水信子「杏雨書屋乾々斎文庫蔵曲直瀬家関係資料目録」の詳細な書誌データに網羅されている。また小曾戸洋・平松賢二「曲直瀬道三の落款」、天野陽介・町泉寿郎・小曾戸「曲直